

## ゲッカビジンの開花調節

永井親雄

### はじめに

一般的に 21 時～22 時頃に咲き始めるゲッカビジンをシェード・電照処理により、昼夜逆転させ、日中に開花・展示できるよう大阪市咲くやこの花館の資料に基づき実証した。

### 基本的な電照・シェード処理時間及び処理時期

21:00～11:00 明 40W 電球 5 個

11:00～21:00 暗

蕾長約 25cm、先を持ち上げた状態 写真 1

### 処理方法

#### (1) 処理前

栽培温室 2 号棟 (寒冷紗張、無冷房) で栽培管理

#### (2) 移動

蕾長が 20～25cm 時に、フクシア温室下倉庫をアルミシートで目張り・暗黒にし、さらにパイプで同シートによる暗黒室 (1m×2m×1m) を作り、搬入した。室温はフクシア温室冷房の影響で日中も 20℃である。

### 結果

① 2005 年 6 月 28 日 16:30 搬入

→ 7 月 4 日 14:00 頃開花

② 同年 7 月 25 日 16:40 搬入

→ 7 月 28 日 12:30 頃開花

②は、蕾長が 30cm 程度のものもあり、これらは入庫後、25 日、26 日の夜間に咲いた。また、①の開花が 14:00 と遅かったので、②は 1 時間処理を早め、20:00～10:00 明、10:00～20:00 暗としたところ開花が 1 時間ほど早くなった。

以上のことから、処理後 3 日、7 日と開花にバラツキがあるものの日中に開花させる実証はできた。また、夜間開園 (17:00～21:00) に合わせた開花処理にも今後取り組んでいきたい。

### 展示

大温室ロビーに展示し、園内アナウンスで周知した。



写真 1. 開花調節中のゲッカビジン

## アキメネス底面給水栽培試験

高井 敦雄

株の大きさに似合わず大きな花を次々と咲かせるアキメネスは、花の少ない時期の盛夏時に花のシーズンを迎えるため、展示効果の高い貴重な鉢花である。しかしながら、多くの品種を保有する当園は、乾きの早い盛夏時はかん水にかなりの時間を割く必要があり、栽培する上で大きな負担となっていた。そこで、かん水労力の軽減を図るため、底面給水栽培が可能かどうか試みたので、その結果を報告する。

### 栽培方法

5 号のプラ鉢の底から底面給水用の不織布を鉢の高さのおよそ 3 分の 1 まで通し、鉢底にボラ土 (大) を一並べし、そこに赤玉土 (小)、腐葉土、ボラ土 (小) を等量混合した培養土を入れた (写真 1)。なお、この培養土には元肥としてマグアンプ K を約 3g/ℓ 添加している。1 鉢には 5 株を定植した (写真 2)。栽培温室 5 号棟のベンチ上に木枠とタフニールを使用して水を貯めた水槽を作り、その上にエキスパ

ンダメタルを設置した (写真 3)。鉢は、そのエキスパンダメタルの上に設置した (写真 4)。コントロールは通常の手かん水である。追肥は、7 月上旬に 1 回、プロミック錠剤中粒 (成分 N-P-K=5-10-10) を 1 鉢に 1 個施用した。

### 対象品種

1 品種あたりほぼ大きさの揃った球根 12 球を 1 球ずつ 2 号のビニールポットに植えて芽出しを行った。そのうちの極端に大きな株や小さい株を 2 株除外し、大きさが比較的揃った 10 球を底面給水用の鉢とコントロールの鉢にそれぞれ 5 球ずつ定植した。底面給水用の鉢とコントロールの鉢で株の大きさが同じになった 5 品種を対象としていたが、そのうちの 3 品種が途中でダニの被害を受けたため、残る 2 品種で試験を続けた。

### 調査方法

#### ①生育比較

定植時と定植以降 2 週間目ごとに 5 株のうち平均的な 1 株を選んでその株長を測定した。測定期間は栽培場所で株の先端が寒冷紗に触れる直前の 7